

チョウ・ガ類



資料館の役割と使命

1949年5月、旧制弘前高等学校・青森師範学校・青森医学専門学校を前身として、新制弘前大学が開学しました。以来、弘前大学は青森県のみならず、北日本地域の総合的な知の創出を担う主要な高等教育機関としての役割を果たしてきました。

弘前大学資料館は、展示を通じて地域に大学の幅広い取り組みとその歩みを紹介するとともに、全国のミュージアムと連携した「知」の提供施設としての役割を担います。また地域の将来に寄与できる学芸員の養成にも取り組んでまいります。

写真：白神山地に分布するチョウ・ガ類

●開館時間

10:00～16:00(入館は15:30まで)

●休館日

日曜・祝日・休日
盆期間・年末年始(12月28日～1月4日)
※都合により開館時間の変更・臨時休館があります。

●アクセス

- JR弘前駅から
 - 徒歩の場合⇒約20分
 - バスを利用する場合⇒約10分
駅前【3番のりば】から「小栗山・狼森線」
又は「学園町線」に乗りし、【弘前大学前】下車
- 東北自動車道
 - 「大鰐弘前IC」または「黒石IC」から約30分

※大学構内へは正門よりご入場ください。
※資料館入口は教育学部棟の南側(下図矢印の位置)となります。
※駐車スペースは、正門守衛室の指示に従ってください。



弘前大学資料館 HIROSAKI UNIVERSITY MUSEUM
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地(弘前大学教育学部校舎内)
電話/0172-39-3432 FAX/0172-39-3433

E-Mail jm3432@hirosaki-u.ac.jp <http://shiryokan.hirosaki-u.ac.jp/>

本リーフレットは人文社会科学部博物館学ゼミナールの学生、秋山輝・渡會絵の協力を得て制作しました



弘前大学資料館



HIROSAKI UNIVERSITY MUSEUM



白神山地に分布す

過去から明日へ

From The Past towards Tomorrow

弘前大学資料館へようこそ

「過去から明日へ」をテーマとする弘前大学資料館は、弘前大学がこれまで地域の方々と協働して積み重ねてきた取り組みと、これからめざすべき研究・教育のすがたを広く知っていただくための公開施設です。その成果と絶え間ない明日へのまなざしをご覧ください。

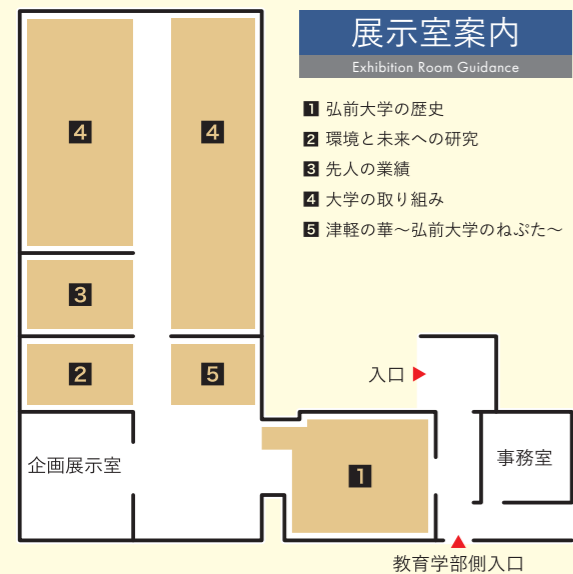
展示について

本館の展示は「弘前大学の歴史」「大学の取り組み」「教育活動・企画展」の3つを軸としています。

「弘前大学の歴史」では、本学の前身である旧制弘前高等学校や青森医学専門学校の実物資料、新制弘前大学の第1回評議会議事録、詳細な年表などを展示しています。また、歴代学長、世界各地に展開する提携校など、国際交流の現況を紹介しています。

「大学の取り組み」では、本学の研究所やセンターによる研究、先人の業績、弘前大学の各学部・研究科による特色ある研究・教育成果の一端を見学できます。展示室では、白神山地で収集された標本類のほか、全学の多様な研究成果をご覧いただけます。また、社会貢献の一環として、本学が半世紀以上続けてきた弘前大学ねぶたの歩みをお楽しみください。

「教育活動・企画展」では、学内の教員やグループによる調査研究の成果を随時展示する企画展を年数回開催するほか、毎年、9～10月には博物館実習履修学生による展示制作も公開しています。



弘前大学の歴史



「前身校の歩み」展示コーナー

本学の前身校の一つである旧制弘前高等学校は、弘前市民による熱心な誘致の末に設置された高等教育機関でした。展示では、前身各校の紹介と新制弘前大学になってからの歴史を展示しています。



テネシー大学マーチン校から贈呈された壁掛け

1980年にテネシー大学マーチン校と協定を結んで以来、世界各国の大学と協定を結び、記念品を交換してきました。

本学の研究チームは2000年に、青森の郷土料理「氷頭(ひず)なます」のつくり方に着想を得て、サケの頭部から安価に大量のプロテオグリカン(あおりPG)を抽出する技術を確立しました。現在、多くの企業がその技術を使って機能性食品や化粧品、医療品などを開発しています。

企業が開発した
プロテオグリカン配合商品



大学院保健学研究科では、国内外の組織と連携した放射線被ばく医療に関する技術研究や人材育成に力を入れており、その一端を展示しています。

大学院保健学研究科
放射線防護服



大学の取り組み

各学部・研究科の展示

人文社会科学部、農学生命科学部、大学院保健学研究科、大学院医学研究科、大学院理工学研究科、教育学部の研究成果とその展開を展示しています。

学部・研究科の取り組みを学ぶ



大学院医学研究科の教授と教育学部美術専攻学生、附属小学校の美術教員が共同で手書きした掛図です。1945～1965年ごろまで解剖学の教育で使われ、資料館では複製をパネルにして公開しています。

卵巣における排卵から子宮への着床までの過程を示す図

教育活動・企画展



「鍾馗奮戦之図」
1995年 八嶋龍仙筆

道教の神、鍾馗をモチーフとする弘前ねぶたの鏡絵です。本学では、過去の弘前大学ねぶたの鏡絵を保存しており、本館でも一部をみることができます。

博物館実習IIの授業で展示制作をする学生たち

本館は学芸員養成課程の学生たちによる実践的な訓練の場ともなっています。学生たちには、展示を見学・研究する機会だけでなく、学芸員養成課程の最終のプロセスとして展示制作に挑む機会が準備されています。

最新を学ぶ

企画展示コーナー・展示室

教員による研究成果の可視化や学生とのコラボレーションによる研究実践、附属小中学校における授業実践の結果公開などを継続的に実施してきました。2024年2月現在で、通算34回の企画展示を実施しています。

第31回企画展「ともにいること・ともに食べること—アフリカ・アジア・わたしたちの食」の様子

